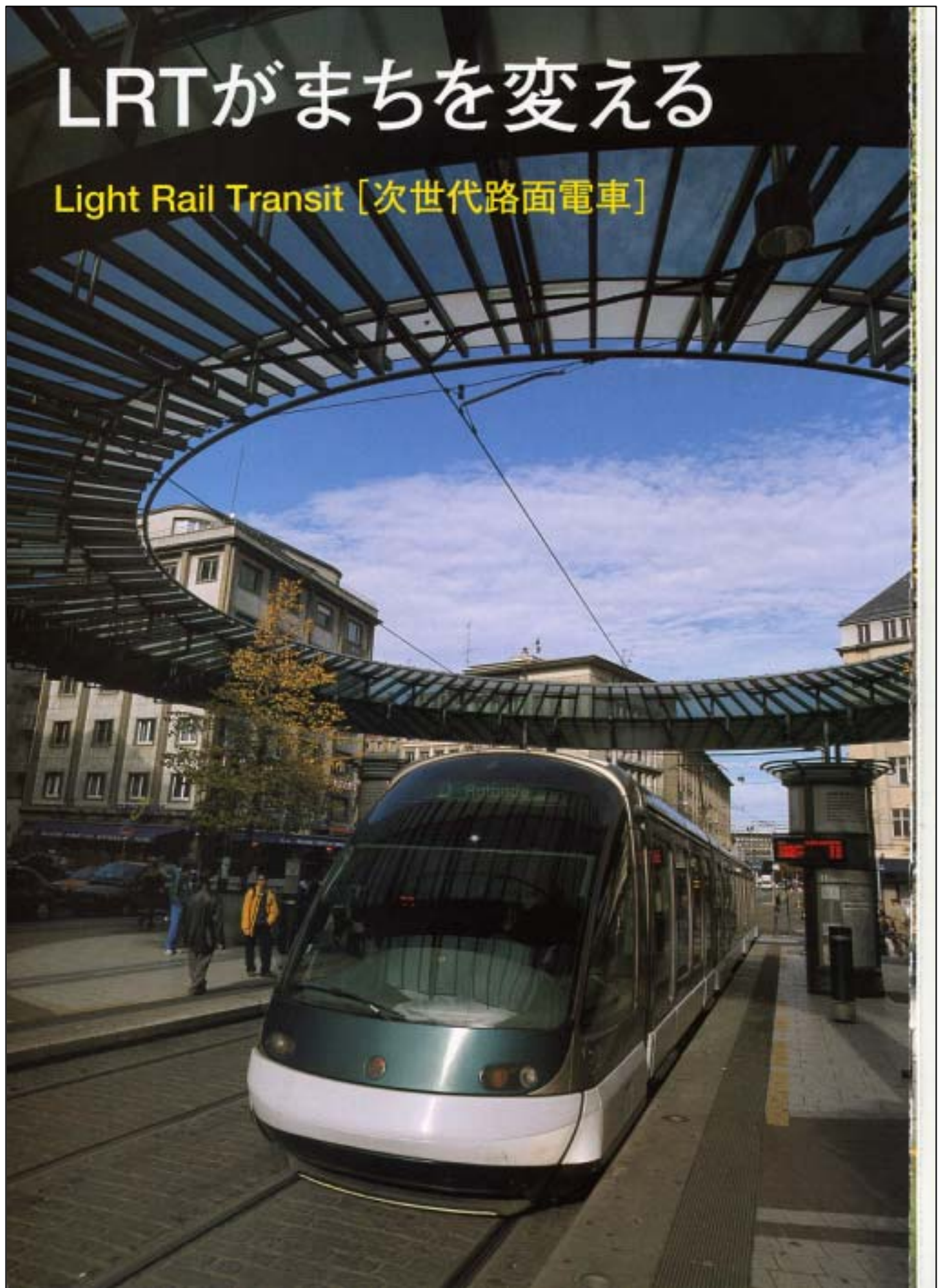


# LRTがまちを変える

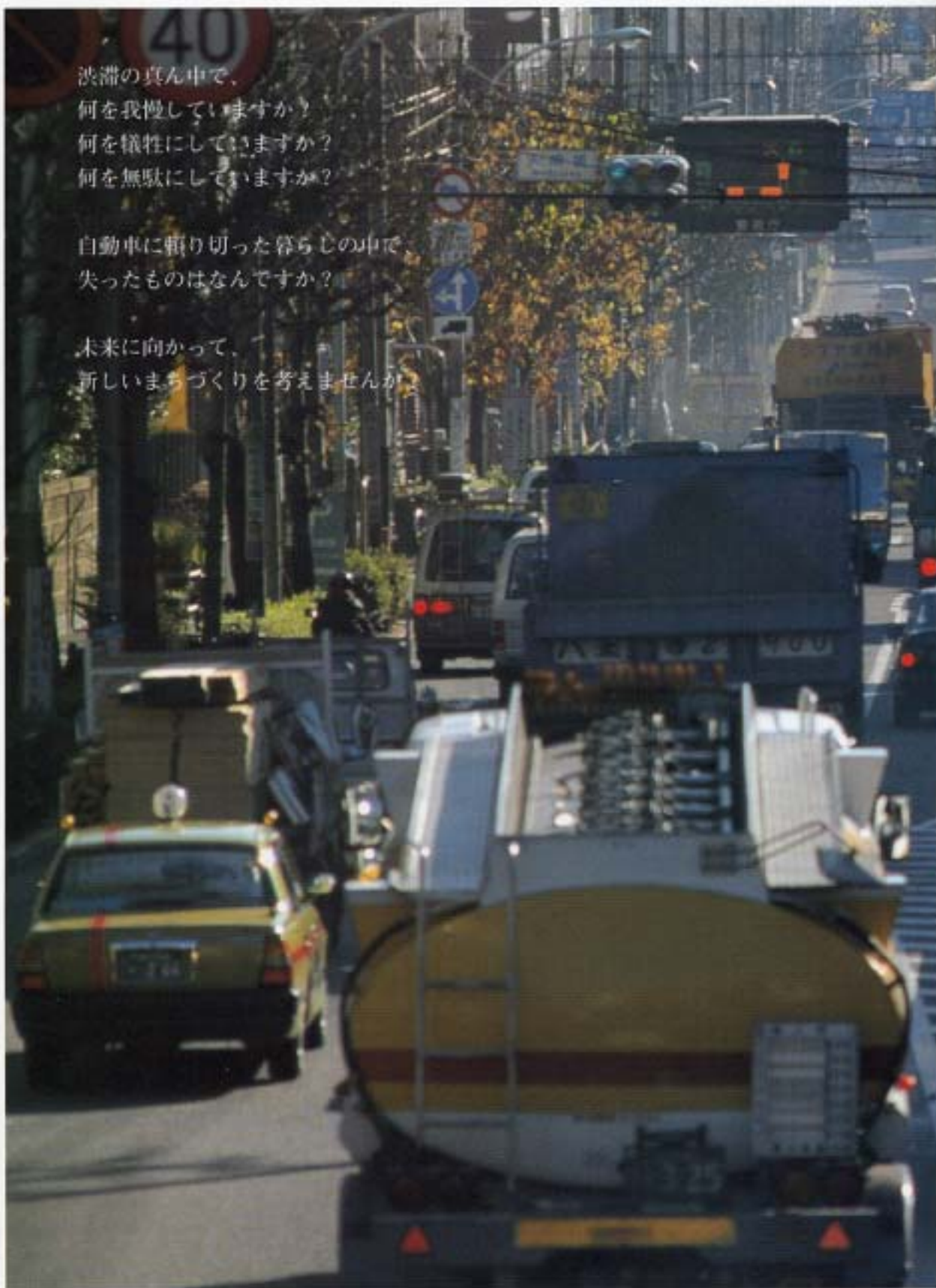
Light Rail Transit [次世代路面電車]




渋滞の真ん中で、  
何を我慢していますか？  
何を犠牲にしていますか？  
何を無駄にしていますか？

自動車で頼り切った暮らしの中で、  
失ったものはなんですか？

未来に向かって、  
新しいまちづくりを考えませんか？





失ったものを取り戻す、  
その一つの方法がLRTです。

LRTは………  
人と環境に優しく、  
にぎわいのあるまちづくりを演出する、  
便利で快適な次世代型の交通システムです。

## ストラスブールのLRT



●LRV (Light Rail Vehicle/ライト・レール・ヴィークル)

LRTのシステム全体の中核となる未来型車輦がLRVで、随所に最新の技術が盛り込まれています。

台車に直接取りつける超小型で強力なモーターにより、乗降が楽に行なえる低くてフラットな床、環境に優しい低騒音、乗り心地に優れた低振動などを実現しました。また、車体は軽くて丈夫なアルミ合金や強化プラスチック製で、大きな窓、明るく開放的な車内など、未来型の特徴を数多く備えています。



●B&R (Bus&Ride/バス・アンド・ライド)

LRTとバスの停留所を一体化した施設です。

LRTの建設に合わせ、LRTと同じ床の高さの低床バスを導入、さらにプラットホームの高さを車輦の床面にそろえることによって、車椅子やベビーカーでも安全かつスムーズな乗降ができるよう工夫されています。

鉄道駅やP&Rと併設されているB&Rには、交通案内所や乗車券・定期券売り場などが設置され、都市近郊の交通拠点となっています。



●P&R (Park&Ride/パーク・アンド・ライド)

LRT停留所と駐車場とを一体化し、相互の乗り替えが楽に行なえるよう造られた施設です。

主に市街地の周辺部や、LRTと幹線道路の交点などに設けられます。駐車料金とLRT乗車賃とをセットにしたり共通の定期券を発行するなどして、利用者の便宜を図っています。

さらに、レンタサイクル、行政機関、文化施設、ショッピングセンターなどが併設され、各地域における交通や文化の拠点となっています。



●Transit Mall (トランジット・モール)

LRTと、歩行者、自転車だけの専用空間です。

市民にのんびり散歩できる空間を提供することで、駅前や市街地中心部の活性化を促します。

また、公園と連結したり、並木や花壇を設けることにより、市内の緑化も図ります。

なお、商店の搬出入は、限られた時間内に許可車輦で行なったり、トランジット・モールのはずれに荷捌き場を設け、専用カートを用いるなど、種々の方法が考えられています。

## LRTを活かしたまちづくり…新しい時代の都市生活のために…



ストラスブール大学周辺。並木や歩道、自転車道を配したLRT路線は、公園のように見えます

下の図は、LRTを活かしたまちづくりの様子を図式化したものです。たとえばドイツのカールスルーエのLRTは、ドイツ鉄道に乗り入れて、100kmもの長距離を走っています。街の中心はトランジット・モールになっていますが、ドイツのシュトゥットガルトのように、一部が地下鉄になっている都市もあります。

トランジット・モール部分では、歩行者に配慮した20km/hほどのゆっくりとしたスピードで、郊外の専用軌道や、乗り入れを行なっている鉄道本線上では60km/h以上の高速で走ります。このように、世界各地の都市で、それぞれの街の特徴や目的に応じて、さまざまなタイプのLRTが導入されています。



# LRT…人と環境に優しい新しい時代の交通

LRTは、自動車と対立するものではありません。

LRTと呼ばれる未来型車両を中心に、鉄道バス、乗用車、自転車など

さまざまな交通機関の特徴を活かしつつ、それらを相互に有機的に結びつける新しい時代の交通システムです。

街なかの「水平エレベーター」として、街に一体感を生み出し、

人が歩道の楽しさ、にぎわいを演出します。

LRTは、子どもからお年寄りまで、すべての人と環境を守りながら

スムーズな人や物の流れを実現するためのネットワークなのです。

LRTに含まれるものは、交通機関ばかりではありません。

遊歩、花街、緑地、サイクリングロード、遊歩道、商店街、駐車場……

私たちが暮らす街の大切な要素すべてを含んだ画期的システムです。

また、高いデザイン性により、新しい魅力的な都市の景観をつくりだします。

未来のまちづくりをトータルで考える

それがLRTです。



# システム

LRTを活かしたまちづくりを進めているフランスのストラスブール。ストラスブールは、街の中心地区がユネスコの世界遺産に登録されている美しい古都ですが、1970年代から自動車の増加による渋滞や環境の悪化が問題となり、新たな交通システムの導入が検討され始めました。

1989年にLRTの導入を決定、1994年に最初の路線が開通。その後も新規路線が次々に開通し、現在も新たな路線が建設されています。さらに行先は、LRTがフランス国鉄の路線に乗り入れて、アルザス地方南部の街、マールーヌやコルマルとの間を結んだり、ライン河を渡り、国境を越えて、ドイツのケール市まで乗り入れたりと、さまざまな計画が進められています。

ストラスブール市ではどのようにLRTが使われているのか、その様子を眺めてみることにしましょう。

## 日本初のLRTを私たちの街に！

子どもたちが大人になるころ、  
私たちの街はどのようになっているでしょうか？



線路ぎわには花や木々が、軌道敷内には芝生が植えられています



LRTの導入で、公園の緑もいきいきと輝いています



ベビーカーや車椅子での移動も楽になりました

LRTは、ストラズブルやパリ、宇都宮の姉妹都市のオルレアンなど、フランスだけでも22都市、欧米や東南アジアなど、全世界ではすでに60以上の都市で採用されている新たな交通システムです。

新たな交通システムには、LRTのほかに、AGT (Automated Guideway Transit) やモノレールなどがあり、世界の各都市で街の規模や状況に合わせた機種が導入されています。

AGTは、高架などの専用軌道を車両がガイドウェイ沿いに走行するシステムで、東京都の「ゆりかもめ」などで運行されています。モノレールは、1本の走行路の上に車両が跨座（またがる）または懸垂（ぶらさがる）して走行するシステムで、都心と羽田空港を結ぶ「東京モノレール」などが代表的なものです。

各システムにはそれぞれ特徴がありますが、東京のような大都市では、土地が少なく地価が高いという理由で、まちづくりが立体的になり、AGTやモノレール

が導入されることが多いようです。

しかし、AGTやモノレールについては、建設費がきわめて高額である、日照などの環境問題が起きる可能性がある、というような問題点も指摘されています。

一方、LRTには、乗降が容易で手軽に利用できる、地震や台風などの自然災害に強く復旧も早い、積載を配するなどして街の緑化や住環境づくりに役立つ、路線の延長など将来の発展性に優れている、といった利点があります。

現在、広島電鉄や熊本市電の一部にLRV型の電車が走っていますが、日本の国内にはまだ、システムとして完成されたLRTはありません。宇都宮にLRTが導入されれば、文字通り日本初。ゼロからのスタートとなりますが、ゼロからのスタートならではの、私たちの街と暮らしを変える、本格的なLRTシステムの導入が可能であると考えています。

### ●パンフレットについてのお問い合わせ先

新交通システム導入推進協議会  
事務局

栃木県企画部交通対策課

〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田1-1-20 TEL 028-623-2187

ホームページ <http://www.pref.tochigi.jp/>

E-mail:kotu-taisaku@pref.tochigi.jp

宇都宮市企画部地域政策室

〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1-1-5 TEL 028-632-2121

ホームページ <http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/>

宇都宮市街地開発組合

〒320-0024 栃木県宇都宮市栄町1-15 TEL 028-622-0558

### ●発行

●取材・撮影

●デザイン・図面作成

●構成

●印刷

●取材協力

### 新交通システム導入推進協議会

西森昭

牧野寿子

嶋崎久実子

株式会社松井ビ・テ・オ・印刷

アルザス開発公社

ストラズブル市交通局

(株)福音館書店

※本紙掲載の記事・写真の無断使用及び転載を禁じます。

Photo & Text © So Nishimori, 2002